

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2016年1週 (1月1週 1/4~1/10)

2015年12月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

インフルエンザ、伝染性紅斑、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、結核

### 定点医療機関コメント

インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ感染症、A群溶血性レンサ球菌感染症等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(20)、細菌性赤痢(1)、デング熱(1)、レジオネラ症(1)、アメーバ赤痢(4)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)、後天性免疫不全症候群(3)、侵襲性インフルエンザ菌感染症(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(5)、梅毒(5)

2015年12月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### インフルエンザ(図1)

1週の定点当たり報告数は1.94と流行開始基準(1.0)以上となりました。53週182人 1週378人です。2015/2016シーズンに病原体定点等から寄せられた検体よりA型(AH1pdm09、AH3)及びB型(山形系統)インフルエンザウイルスが検出されています。

#### 【参考ページ】

インフルエンザが流行入りしました!(1月14日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/27influ-ryukoiri.html>

<速報>2015/16シーズン初めに保育園集団かぜ

から分離されたAH1pdm09亜型インフルエンザウイルス 愛知県

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-iasrs/6016-pr4291.html>

保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ\\_map\\_new.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ_map_new.html)

インフルエンザ情報ポータルサイト(愛知県)

<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/influ/index.html>

### 伝染性紅斑(図2)

1週の定点当たり報告数は0.78、53週52人 1週142人です。

### 感染性胃腸炎

1週の定点当たり報告数は7.27、53週624人 1週1,324人です。

#### 【参考ページ】疾患別ウイルス検出状況

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

1週の定点当たり報告数は1.99、53週172人 1週363人です。

#### 【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a\\_youren.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

### 結核(図3)

2015年の総報告数(診断週集計)は1月13日現在1,684件(うち無症状病原体報告者は463件)でした。2014年の総報告数は1,867件(同529件)、2013年総報告数は1,915件(同468件)でした。

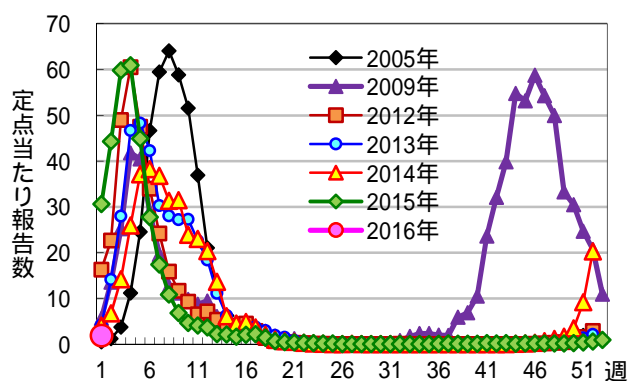


図1 インフルエンザ

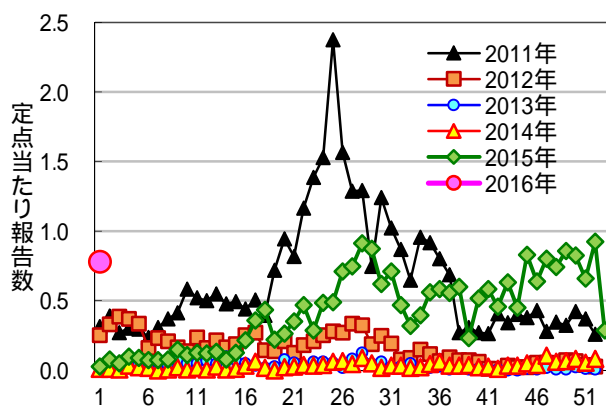


図2 伝染性紅斑

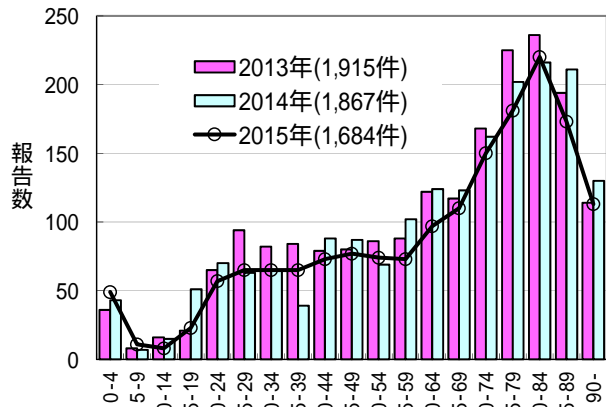


図3 結核の年齢階級別報告数

(愛知県、診断週集計、無症状病原体保有者を含む)

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

ノロウイルス感染症 1例  
【稲沢市 愛知県厚生農業協同組合連合会稲沢厚生病院】  
感染性腸炎増加  
9歳男 カンピロバクター  
6か月男 ノロウイルス感染症(+)  
溶連菌感染症も多いです。  
【一宮市 あさのこどもクリニック】  
感染性胃腸炎流行中  
伝染性紅斑、流行性耳下腺炎あり。  
【一宮市 後藤小児科医院】  
水痘、ムンプスがみられます。  
手足口病散発  
インフルエンザはまだありません。  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】  
インフルエンザA型2名ありましたが、いずれも市外での感染でした。  
【犬山市 武内医院】

インフルエンザA型 6名  
感染性胃腸炎流行続いています。  
【江南市 みやぐちこどもクリニック】  
インフルエンザA 1名  
【北名古屋市 田中クリニック】  
22歳男 カンピロバクター及び病原大腸菌O25検出  
3歳女 溶連菌感染症  
14歳男 マイコプラズマ肺炎  
42歳女 インフルエンザA  
【清須市 丹羽医院】  
インフルエンザA型7名ありました。  
【あま市 医療法人村上医院】  
インフルエンザA型 2名  
【弥富市 医療法人すずきこどもクリニック】

尾張東部地区

流行性耳下腺炎の小流行あり。  
溶連菌感染症もよくみられます。  
インフルエンザA型 1歳男  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】  
インフルエンザA 計1例  
【長久手市 医療法人水野内科】  
ムンプスが多いです。  
耳下腺炎のみならず、髄膜炎で2週で4名入院しています。  
インフルエンザ  
大人4名(A型4名)  
小児2名(A型1名、B型1名)  
【春日井市 春日井市民病院】  
10歳女 マイコプラズマ気管支炎  
インフルA 一家族  
溶連菌、胃腸炎多数  
ムンプスも多い。  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】  
相変わらず乳幼児のRSV、学童のマイコプラズマが目立ちます。  
【小牧市 小牧市民病院】

RS感染、ノロウイルス感染が多くみられます。  
(乳幼児施設内流行もみられます。)  
インフルエンザはA型で兄弟例です。  
【小牧市 志水こどもクリニック】  
インフルエンザA型 男1人  
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】  
インフルA 1例  
インフルB 3例  
【武豊町 なかしまキッズクリニック】  
A型インフルエンザ 2人  
感染性胃腸炎 8名  
耳下腺炎散発  
【南知多町 医療法人大岩医院】  
インフルエンザA 5歳女  
【半田市 ひいらぎこどもクリニック】  
ノロウイルス胃腸炎(1歳1名)  
サルモネラO4腸炎(2歳1名兄からの感染の可能性あり)  
【東海市 もしもしこどもクリニック】  
1歳男 カンピロバクター(+)  
10か月男 RSウイルス(+) 昨年9月にもRSウイルスに罹患しています。  
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+) 4歳女 5歳女 22歳男  
マイコプラズマ肺炎 11歳男 13歳男  
RSV(+) 1歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

マイコプラズマ 20歳以上女

【豊田市 わかぞの東洋クリニック】

インフルエンザ陽性 A型 2名

【豊田市 愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院】

マイコプラズマ肺炎 3歳男

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

アデノ(咽頭) 5歳男

インフルエンザは1人(B)

下痢・嘔吐が目立ちます。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

感染性胃腸炎が目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザA 4名

【知立市 宮谷クリニック】

インフルエンザA型 2名

【西尾市 西尾市民病院】

今週も胃腸炎が目立ちました。

【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

インフルエンザA型 3名

【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

インフルエンザB型が2名でした。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

インフルエンザA型 3名

【豊橋市 山本医院】

インフルエンザA型 2名

【豊川市 豊川市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2016年1月13日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun150521.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2016年1週報告数			2015年総計(1～53週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	12	6	1	703	170	171
豊田市	1			58	13	18
豊橋市	1			73	11	25
岡崎市				41	14	4
一宮				103	37	27
瀬戸	3	1		148	24	69
半田				37	12	3
春日井				92	22	21
豊川				42	14	7
津島	1			102	18	37
西尾				33	10	8
江南				58	11	27
新城				20	4	7
知多				54	15	14
清須				39	17	5
衣浦東部	2		1	88	22	25
合計	20	7	2	1,691	414	468

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	名古屋市	6歳	女	1/3	1/4	1/9	国内

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	知多	16歳	男	デング熱	フィリピン

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	78歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	66歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内
2	名古屋市	53歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内
3	名古屋市	50歳	男	腸管外アメーバ症	性的接触	国内、ベトナム
4	一宮	54歳	男	腸管外アメーバ症	不明	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	衣浦東部	75歳	男	以前からの保菌	国内	無

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	59歳	男	国内
2	知多	71歳	男	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	47歳	男	AIDS	不明	不明
2	名古屋市	27歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	32歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊川	88歳	男	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	89歳	男	不明	国内
2	豊田市	85歳	女	有	国内
3	西尾	83歳	男	無	国内
4	衣浦東部	80歳	女	無	国内
5	衣浦東部	95歳	女	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	49歳	男	早期顕症	性的接触	国内
2	名古屋市	32歳	男	早期顕症	性的接触	国内
3	名古屋市	34歳	男	無症候	性的接触	国内
4	春日井	23歳	女	無症候	性的接触	国内
5	豊川	38歳	男	早期顕症	性的接触	国内

## 12月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [( )は無症状病原体保有者再掲]

2014～2015年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数	2015年12月			2015年	2014年
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7) 発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7) 結核	82 (22)	62 (16)	144 (38)	1,684 (463)	1,867 (529)
三類 (5) コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)	10 (0)
腸管出血性大腸菌感染症	3 (0)	2 (1)	5 (1)	98 (21)	132 (30)
腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
四類 (43) E型肝炎	0	0	0	8	1
A型肝炎	0	0	0	10	8
コクシジオイデス症	0	0	0	1	0
つつが虫病	2	0	2	2	2
デング熱	0	0	0	17	11
マラリア	0	0	0	2	1
ライム病	0	0	0	1	0
レジオネラ症	3	2	5	99	61
五類 (22) アメーバ赤痢	1	4	5	62	68
ウイルス性肝炎	0	0	0	15	13
内訳					
B型	0	0	0	10	12
その他	0	0	0	5	1
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	4	1	5	79	19
急性脳炎	0	1	1	26	18
クリプトスポリジウム症	0	0	0	1	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	8	11
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	0	5	16	18
後天性免疫不全症候群	2	5	7	104	98
内訳					
無症候性キャリア	1	1	2	58	65
AIDS	1	4	5	42	32
その他	0	0	0	4	1
ジアルジア症	0	0	0	4	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	1	15	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症	14	6	20	160	122
水痘(入院例に限る。)*	2	0	2	17	10
梅毒	6	8	14	120	112
内訳					
無症候	3	1	4	42	50
早期顕症	3	7	10	70	56
晩期顕症	0	0	0	7	6
先天梅毒	0	0	0	1	0
播種性クリプトコックス症*	0	0	0	9	2
破傷風	0	0	0	8	4
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
風しん	0	0	0	13	21
麻しん	0	0	0	0	46
総計	126	91	217	2,587	2,680

\* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。



五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

疾病名	2015年12月			2015年累計		2014年総計			
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県全体	愛知県全体	合計	愛知県全体	合計		
				合計		合計			
性感染症定点	性器クラミジア感染症	男	35	41	76	855	1,498	900	1,591
		女	37	18	55	643		691	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	11	8	19	224	601	169	643
		女	10	16	26	377		474	
尖圭コンジローマ	男	5	9	14	217	327	220	347	
	女	6	3	9	110		127		
淋菌感染症	男	13	24	37	489	565	577	657	
	女	7	1	8	76		80		
基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		71	12	83	994		1,090	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		10	0	10	92		59	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	1		4	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	-		0	

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2015年12月			2015年累計		2014年総計	
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県全体	愛知県全体	合計	愛知県全体	合計
エキノコックス症の犬	0	0	0	0		1	

感染症の類型及び定義(感染症法)

2015年5月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症** (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

\*\* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。





